

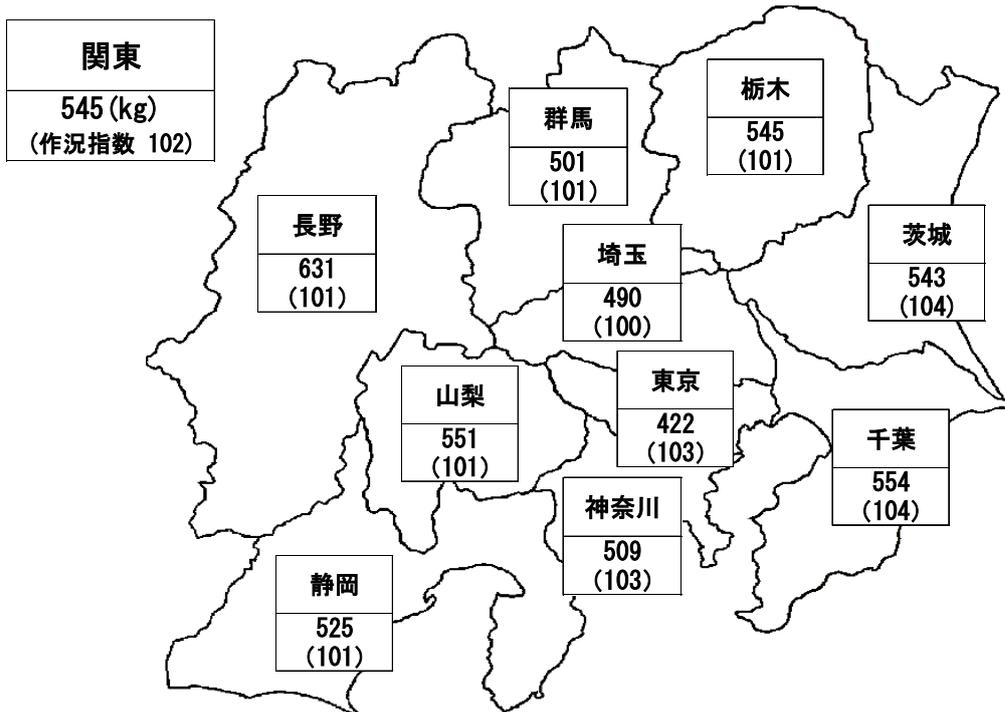
平成25年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (関東農政局管内)

— 水稻の10a 当たり予想収量は545kg (作況指数102) の見込み —

【調査結果の概要】

- 1 関東農政局管内における平成25年産水稻の作付面積 (青刈り面積を含む。) は32万3,900haで、うち主食用作付見込面積は30万4,100haが見込まれる。
- 2 9月15日現在における水稻の10a 当たり予想収量は545kg (作況指数102) が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量 (主食用) は166万tが見込まれる。

図 都県別10a 当たり予想収量 (9月15日現在)



- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積 (青刈り面積を含む。) から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等 (備蓄米、加工用米、新規需要米等) の作付面積を除いた面積 (見込み) である。
- 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。
- この作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。なお、9月16日に本州に上陸した台風第18号による影響は、現段階で把握できる被害について見込んでいる。

この統計調査における調査の目的、調査の対象などは、【調査の概要】P6に掲載しています。

【調査結果】

1 作付面積

水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）は32万3,900haで、前年産に比べて100ha増加した。

2 作柄概況

- (1) 穂数は、6月中下旬にかけて日照時間が少なく推移したことから栃木県及び静岡県で「やや少ない」となったものの、群馬県、東京都及び山梨県ではおおむね好天に恵まれたことにより「多い」から「やや多い」となり、その他の県では「平年並み」となった。
- (2) 1穂当たりもみ数は、7月上中旬が高温・多照に推移したことから「やや多い」から「平年並み」となった。
- (3) この結果、全もみ数は、東京都では「多い」、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県及び神奈川県では「やや多い」、その他の県では「平年並み」となった。
- (4) 登熟は、出穂期以降高温・多照に推移したことから長野県及び静岡県では「やや良」が見込まれ、その他の都県では「平年並み」から「やや不良」が見込まれる。
- (5) 以上のことから、関東農政局管内の10a当たり予想収量は545kg(作況指数102)が見込まれる。
- (6) 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は166万tが見込まれる。

【統計表】

1 平成25年産水稲の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

(1) 作付面積及び10a当たり予想収量

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量	10a当たり 平年収量	作況指数 ③=①/②	参 考	
	実 数	前年産との比較					主食用作付 見込面積 ④	予想収穫量 (主食用) ⑤=①×④
		対 差	対 比	ha	t			
管 内 計	323,900	100	100	545	534	102	304,100	1,660,000
茨 城	77,700	0	100	543	522	104	73,600	399,600
栃 木	69,000	600	101	545	540	101	61,000	332,500
群 馬	18,500	△ 200	99	501	494	101	16,500	82,700
埼 玉	35,800	△ 200	99	490	490	100	34,500	169,100
千 葉	62,000	0	100	554	533	104	59,400	329,100
東 京	161	0	100	422	411	103	161	679
神 奈 川	3,160	△ 60	98	509	493	103	3,150	16,000
山 梨	5,270	△ 20	100	551	547	101	5,210	28,700
長 野	34,600	100	100	631	623	101	33,700	212,600
静 岡	17,700	△ 100	99	525	521	101	16,900	88,700

注：主食用作付見込面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積(見込み)である。

(2) 作柄概況

区 分	10 a 当たり 予想収量 ①	10 a 当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	平 年 比 較			
				穂 数 の 多 少	一 穂 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否
管内計	kg 545	kg 534	102	…	…	…	…
茨 城	543	522	104	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
北 部	543	516	105	平年並み	やや多い	やや多い	やや良
鹿 行	541	519	104	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み
南 部	548	526	104	やや多い	やや多い	多 い	やや不良
西 部	537	525	102	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
栃 木	545	540	101	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み
北 部	566	560	101	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
中 部	552	544	101	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
南 部	503	503	100	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み
群 馬	501	494	101	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
中 毛	485	487	100	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み
北 毛	537	520	103	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
東 毛	508	496	102	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良
埼 玉	490	490	100	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み
東 部	504	502	100	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み
西 部	460	467	99	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み
千 葉	554	533	104	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
京 葉	536	519	103	やや少ない	多 い	やや多い	平年並み
九十九里	573	549	104	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
南房総	529	512	103	平年並み	平年並み	やや少ない	やや良
東 京	422	411	103	多 い	平年並み	多 い	やや不良
神 奈 川	509	493	103	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
山 梨	551	547	101	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み
長 野	631	623	101	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
東 信	643	638	101	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良
南 信	633	631	100	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
中 信	644	638	101	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや良
北 信	593	571	104	やや多い	やや多い	やや多い	平年並み
静 岡	525	521	101	やや少ない	平年並み	平年並み	やや良
東 部	534	524	102	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
西 部	517	519	100	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良

2 平成25年産水稻の都県・作柄表示地帯別出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

都 県 作柄表示地帯	出 穂 期					刈取済面積 割 合 %
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較		
				対平年差	対前年差	
月 日	月 日	月 日				
茨 城	7.19	7.31	8.11	3日早	3日早	69
北 部	7.22	8.4	8.20	3日早	3日早	40
鹿 行	7.18	7.30	8.10	4日早	3日早	90
南 部	7.15	7.29	8.6	2日早	1日早	82
西 部	7.21	7.29	8.7	5日早	6日早	70
栃 木	7.26	8.2	8.16	3日早	2日早	32
北 部	7.28	8.1	8.13	4日早	3日早	24
中 部	7.26	7.31	8.12	3日早	2日早	44
南 部	7.22	8.10	8.24	2日早	1日早	30
群 馬	8.9	8.20	8.28	2日早	並 み	2
中 毛	8.8	8.21	8.30	2日早	1日早	1
北 毛	8.9	8.11	8.18	1日早	1日遅	1
東 毛	8.9	8.19	8.28	2日早	1日早	3
埼 玉	7.24	8.11	8.28	2日早	2日早	34
東 部	7.22	8.8	8.28	3日早	2日早	42
西 部	7.31	8.14	8.29	2日早	2日早	18
千 葉	7.15	7.24	8.3	4日早	3日早	96
京 葉	7.18	7.25	8.10	5日早	4日早	90
九十九里	7.15	7.24	8.1	4日早	2日早	98
南房総	7.10	7.21	7.30	4日早	2日早	98
東 京	8.8	8.13	8.25	3日早	5日早	1
神 奈 川	8.3	8.12	8.18	1日早	2日早	16
山 梨	8.2	8.9	8.22	4日早	3日早	20
長 野	7.30	8.7	8.14	2日早	1日早	18
東 信	8.2	8.9	8.15	2日早	並 み	3
南 信	7.30	8.5	8.13	2日早	並 み	24
中 信	7.25	8.3	8.11	3日早	3日早	34
北 信	8.2	8.11	8.19	1日早	並 み	2
静 岡	7.18	8.9	8.27	3日早	4日早	44
東 部	7.28	8.10	8.26	3日早	5日早	26
西 部	7.15	8.7	8.28	4日早	4日早	60

注：出穂期の始期とは、出穂済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日である。

【関連するデータ、情報】

◎ 水稲調査結果の利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産数量目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

等

◎ 累年データ

水稲の年次別推移（関東）

年産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	作 況 指 数	10 a 当たり 平 年 収 量
	ha	kg	t		kg
昭和58年産	416,200	421	1,753,000	94	447
59	425,400	492	2,095,000	110	447
60	429,300	482	2,070,000	107	450
61	422,000	476	2,008,000	105	453
62	393,200	495	1,948,000	108	457
63	386,700	442	1,711,000	96	462
平成元	385,300	474	1,827,000	102	465
2	382,000	501	1,912,000	107	468
3	378,000	490	1,852,000	104	473
4	383,700	500	1,919,000	105	476
5	386,700	413	1,597,000	86	481
6	401,200	534	2,141,000	111	481
7	388,300	507	1,970,000	105	484
8	366,600	530	1,944,000	109	486
9	362,100	526	1,904,000	107	493
10	337,800	478	1,613,000	96	499
11	336,800	523	1,763,000	103	507
12	334,700	541	1,811,000	105	516
13	327,700	529	1,732,000	103	516
14	324,900	532	1,730,000	102	522
15	322,300	494	1,593,000	94	524
16	330,200	559	1,846,000	106	526
17	330,400	541	1,789,000	102	530
18	327,500	511	1,674,000	96	533
19	327,600	523	1,713,000	98	533
20	318,400	546	1,737,000	102	533
21	317,200	530	1,680,000	99	533
22	317,000	520	1,648,000	98	533
23	312,900	534	1,670,000	100	533
24	312,600	542	1,693,000	102	533

資料：農林水産省大臣官房統計部『作物統計』

注：作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲作柄概況調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に行っている。

なお、関東農政局管内は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県及び静岡県の10都県である。

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：8,292単位区 巡回・見積り：434市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆調査：1,805筆 作況基準筆調査：147筆 巡回・見積り：434市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 作柄概況調査：9月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行った。

(2) 作柄概況調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。

(2) 作柄概況調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

8 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。

- (2) 「穂数の多少」とは、1 m²当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1 m²当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1 m²当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95~98%	99~101%	102~105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率である。
- (8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

9 その他

- (1) 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。
- (2) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- (3) 表中に用いた記号は以下のとおりである。
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの

- この統計調査結果は、関東農政局ホームページ中の統計情報に掲載しています。
アドレス【http://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/】
又は、関東農政局トップページ▶統計情報▶各種統計

お問合せ先

- ◎本統計調査結果について
関東農政局 統計部 生産流通消費統計課
電話：048（740）0588
- ◎農林水産統計全般について
関東農政局 統計部 統計企画課
電話：048（740）0058



漁業センサス

平成25年11月1日現在で、2013年漁業センサスを実施します。
(流通加工調査については平成26年1月1日現在)

調査員がお伺いしましたら、ご協力をお願いします。

漁業センサスホームページURL：<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/fc>

漁業センサスに関するお問合せ先は

連絡先：農林水産省 大臣官房統計部 経営・構造統計課
センサス統計室 漁業センサス統計班

電話：03-3502-8467

FAX：03-5511-7282